

看護部だより ひまわり



2014年 9月
発行責任者：小牧加代子

VoL. 32

認定看護管理者に合格して

昨年認定看護師管理者教育課程サードレベルを受講させていただきました。今年5月に認定看護管理者の試験を受け、7月に何とか合格通知を受け取ることができました。

認定看護管理者制度は、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献することを目的としています。また管理者として優れた資質、創造的に組織を発展させることができる能力も求められています。期待される役割を全うするには、まだまだ不足していることばかりですが、皆さんのご協力をいただきながら、頑張っていきたいと思います。



診療報酬改定について

2014年診療報酬改定により、「地域包括ケア病棟」が新設されました。当院でも亜急性期病床から地域包括ケア病棟への転換を行うこととなりました。今後は患者さんの状態や治療内容を検討しながら、在宅等からの直接入院受け入れを行う必要が出てきます。今後「地域包括ケアシステム」の構築が進み、必要な医療、介護、福祉の統合したケアが重要になってきます。かかりつけ医の先生方、介護・福祉関係者の方との連携をよりスムーズにすることが必要です。地産地消の医療・介護・福祉体制ができればよいと考えます。

10月以降の当院の体制は以下のように変更となります。

7対1入院基本料	3階東病棟（43床）、3階西病棟（19床） 4階東病棟（38床）、4階西病棟（43床）
HCU入院医療管理料	4階東病棟（4床）
地域包括ケア病棟入院料	地域包括ケア病棟（新病棟）（23床）

副看護部長
長井 砂都美

8/1 教育講演会

周術期看護の本質と実践

講師：浦 雅司氏

8月1日、関西看護業務研究会より浦雅司氏を講師に迎え、「周術期看護の本質と実践」をテーマに講演会を実施しました。院内職員69名の参加がありました。

周術期管理とチーム医療を主に、術前・術中・術後の看護について講演をしていただきました。現在の周術期看護における問題点とその改善点、また手術を受ける患者さんへの看護の特性から、看護師は看護の本質を理解するべきであるということを改めて振り返る事ができ、病棟スタッフより、周術期への理解が必要であり病棟でも周知し活かしていきたいという意見が聞かれました。

入院期間が短縮化している中で情報収集の困難や、関わる時間が短いという現状がありますが、これからもより良い看護の提供と患者さんの目標達成に向け、スタッフ間での協力と有効的な情報の共有を実践していきましょう。

3東病棟 田代



院内研修報告

7/15 ウォーキング『メンバーシップ』

講師：3東病棟 猿楽、神田、林看護師

講師にキャリアレベル5年以上の看護師による研修は、初めての試みでしたが、グループワークや事例などを通して楽しくわかりやすい講義でした。リーダーの立場、メンバーの立場で意見交換ができたことでお互いの立場について理解を深められたと思います。今後、ウォーキングメンバーが、役割をしっかりと果たしていけるように、教育委員として見守っていききたいと思います。

4西病棟 西川

7/24 スターティング・アシスタントナース『エンゼルケア・患者家族対応』

講師：緩和ケア認定看護師 松若主任

今回は、スターティング・アシスタントナースの合同研修であり、32名が研修に参加しました。エンゼルケアの目的と方法、エンゼルケアの実際、エンゼルメイクの実践、霊安室の見学と作法について講義をして頂きました。エンゼルメイクの実技では、スタッフ同士でメイクを実施し、お互いに学びを深めることができたようで、研修参加者より、「エンゼルケアの大切さが理解できた、家族への配慮や声かけが不足していたと感じた、メイクの体験は、今後に活かそう」という意見が聞かれ充実した研修でした。

3西病棟 福岡



8/7 スターティング『KYT』

講師：医療安全管理者 城/下師長

今回は危険予知トレーニングの講義を行っていただきました。事前課題に、ローテーション先の病棟で、病室や廊下に潜む危険を探し、デジタルカメラで撮影し研修当日に発表をしました。中にはつい自分もやってしまう椅子を廊下に置き去りにしてしまう場面をはじめ、色々な気づきをしていました。グループワークでは事例を用いて、その場面の状況把握・本質追求・対策立案・目標設定を行い、KYTお決まりの目標を指さししての「ヨシ！」の唱和をバッチリ決めていました。今回の研修で学んだことを活かし、常に患者の状態・環境を把握し危険を予見しながら看護を行っていきましょう。

4東病棟 林



8/12 ジャンプ『臨地実習指導の原理』

講師：3東病棟 瀬戸口副師長

今回、教育的関係性、学習の構成とその背景、倫理的配慮、学生の安全確保と医療過誤対応について学びを深めました。研修後、学生指導を実施する前に、実際の自分の行動や自分の対応を振り返り、見直していきたいなどといった感想が聞かれました。また中には、自分の看護が手本になる事が不安であり、恐怖であるといった意見もありました。同じ職場で働いていくという認識を念頭に、学生の気持ちをくみ取りながら指導できる先輩看護師として自信を持って関わって欲しいと思います。

外来 吉永

8/19 ランニング『コーチング』

講師：4西病棟 切通、鍛冶屋、大重看護師

コーチングとは、相手の自発的な行動を促すコミュニケーションの技術であると指導されていました。今回、参加者したスタッフは、プリセプターを担当しています。忙しい中での新人看護師との関わりは時間の工夫が難しいと意見が聞かれました。しかし、実際にコーチングを用いたロールプレイングを実施して、相手の思いや考えをしっかりと傾聴して、答えを引き出せるようにしていきたいという意見も聞かれるようになりました。人材育成に携わる中で、互いに高め合い、ステップアップできるよう努力していきましょう。

3東病棟 田代



8/5 ホップ『看護研究』

講師：OP室 村尾師長

2回目のホップ研修は、前回の復習として看護研究のテーマ探し、看護研究と業務改善の違いについての講義でした。

研修内容として、研究計画書の書き方、研究計画書とは、研究計画書の記載項目、テーマ、動機と目的、問題の背景、研究の意義、研究方法、まとめ方など、難しい内容でしたが、ポイントをおさえて細かく分けてあったため、理解しやすかったのではないかと思います。まずは研究のテーマ探しが大変だと思いますが、他、進め方のコツや質的量的研究の共通点と相違点、論文作成時の諸ルールなども講義があったので今後看護研究を行う際は、ぜひ参考にしてもらいたいと思います。

OP室 宮内



6/21 実践編PNS導入・運営・つまづき解消の具体策の研修に参加して

PNS導入定着のために パートナースhipマインドの浸透 パートナースhipマインドの研修の実際 PNSの定着までの道筋という研修内容で、福井大学の副病院長の立花幸子先生と病棟師長の上山加代子先生の研修を受講しました。今回研修内容の中で、業務を定時に終えるにはどのような戦力を用いて行うか、マネージメントすることが必要。また、できないで終わらずに、できるようにするにはどうすれば良いかを考え、イノベーションする方法を見出していく事が重要であると学びました。

病棟でも補完の4重構造の充実、個々の日々のタイムマネージメント能力アップ、リーダーのマネージメント力アップの改善が必要と感じ、学んだことを病棟会で伝達研修を行いました。伝達したことによってタイムマネージメント力のアップ、看護の質も落とさず、定時に業務を終えるにはどのようにすればよいか、イノベーションする力がつき最近では残業をすることが少なくなったように感じます。

回復リハビリ病棟 満園

8/23 早期離床の研修会に参加して

早期離床は呼吸器合併症（下側肺障害・無気肺など）を中心とした長期臥床による二次的合併症対策に有用であり、現在、手術後のみならず、臥床状態におかれた全ての患者に対し行われています。しかし、早期離床を行うと言っても、そこに根拠がなければ安全に離床を進めることはできません。

今回の研修で、実際に離床を進める看護師やリハビリスタッフがフィジカルアセスメントの知識を持つことの重要性や患者の状態をアセスメントし、根拠を踏まえた上で離床の判断を行うことの大切さを学びました。

曖昧な判断で離床を進めるのではなく、患者の状態をきちんとアセスメントし、根拠に基づいた離床が行えるように看護していきたいです。

4西病棟 八年禮

8/30 運動器障害に対する治療と高齢者介助法について

鹿児島大学公開講座に参加させていただきました。

私たちが自分の身体を自由に動かすことができるのは、骨・関節・筋肉や神経で構成される運動器の働きによるものです。どれか一つ悪くても身体は上手く動きません。講座では「脳卒中」について廃用症候群の予防リハビリ、介護実技では基本動作のポイント、声掛けの高さ、介助時の立ち位置など、再度確認することができました。また平均寿命が延びた今、ロコモティブシンドローム（運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態をいう）にならない対策をとることが「健康寿命」を伸ばすポイントになります。今回の研修で介護予防の知識を学ぶことができました。

日常生活動作の改善など基本動作では、「手はかけすぎず、目は離さず」できるだけ介助者の負担を減らし、患者自身が自立できるように介助していきたいと思います。また、研修で学んだことを他の助手さんにも伝達し統一した介助を行えるようにしていきたいと思います。

回復リハビリ病棟 屋久

8/31 2014 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修に参加して

看護必要度の研修に12名参加しました。みなさん！日頃実施している看護必要度の評価に自信がありますか？診療報酬の改定に伴い、今年の4月から時間尿測定と血圧測定がなくなり、呼吸ケアが喀痰吸引を除くとなったのは、急性期より療養型病院の方で優位になっていたのでは指標にならないという理由からでした。創傷処置一つをとってもガーゼをはがすだけの日は含めない、穿刺創（縫合していない）は含めないとなっています。記録も再現性がないといけません。外部の人が記録を見て同じように評価できるものでなければいけません。

看護必要度をそんなに嫌がらなくても大丈夫ですよ！B項目は制限がないのに実施していない時には「できる」。一日の中で内容が変化したときには重い方を評価したらいいのです。

3東病棟 瀬戸口

9/6 専門職としての第一歩

～看護職としての自覚と責任ある行動について考える～

今回、看護協会研修に参加し、看護師として約6か月間の行動について考えるよい機会となりました。一人一人の命患者様それぞれの人生と共に過ごし、その時にできないこと・サポートしてほしいところを補うことが看護であることを再認識できました。さらに、患者様にとって先が見えるような関わりを行うことの大切さを学びました。看護職として、責任と自覚をもてるように患者様との日々のかかわりを大切にしていきたいと思いました。

4西病棟 花木

他部署体験報告

回復リハビリ病棟の体験を通して学んだこと

今回、回復リハビリ病棟での研修で退院（転院）へむけ、患者・家族と共に自己の目標を決めADL拡大を図っていくことが必要であるとわかりました。私は日々の看護の中で患者の自ら行動する時間を待つことができず直ぐに手を貸してしまうことが多いです。これは患者の自立する気持ちを阻害してしまうことと同じです。急性期・回復期と繋がりをもって看護を行っていくこと、離床を図り転倒の原因を考え予防を行うこと、他部署とのコミュニケーションを密に図り、チームとして患者・家族を支えることの大切さを学ぶことができました。今回の研修での学びをこれからの看護に活かしていきたいです。

3東病棟 濱崎

看護部カトレア会

親睦会を終えて

OP室 村尾

平成26年度看護部カトレア会主催の看護部懇親会を8月6日にレストランカトレアにて行い、参加者は80名でした。料理は毎日ランチでお世話になっているアンフィーさんをお願いしました。お刺身や唐揚げなどの他に、キッシュやアヒージョ、スイーツも種類を増やして見た目も楽しく豪華な盛り付けで美味しくいただきました。ゲームは「100円じゃんけん」と「私はだ〜れ?」をしました。100円ゲームは4東病棟の久保師長が最後まで勝ち残り、8,000円を手に入れました。「私はだ〜れ?」ゲームでは、幼い頃の写真を見て誰かを当てるゲームですが、看護部が2人当ててお菓子の詰め合わせの賞品が渡されました。4月以降に会員になった方々の紹介をしたり、ゲームをしたりして会員の親睦を深めた、楽しい時間になりました。

じゃんけんゲーム優勝者!(!^^)!



マイブーム

4階東病棟 園田

今ひそかに少女マンガが私のマイブームとなっています。私は宮之城に住んでいますが、宮之城といえは“たけのこ”です。ちくりんの村です。・・・それだけです。鹿児島市内から実家に移住した20代の私にとってはとても暇な日常です。そこで「ちょっと暇つぶしに」と思って読んだ少女マンガでしたが・・・これがなんと!!まーおもしろい!!
CMでお馴染みの“壁ドン”・・・ベタですが胸キュンです(笑)
草食男子が多いと言われているこの時代に、やはりベタかつスマートな肉食男子には心を奪われます。
マンガ・アニメにはまっているのはわたしだけではないようで、病棟の先輩からもよくアニメの話聞くことがあります。それは有名な“聖闘士星矢”です。話を聞く限り・・・おもしろそう!!という関心は薄いですが、ちょっと興味はあるので今度拝見してみようと思います。皆さんも秋の夜長に少女マンガを読んで“♥ 胸キュン ♥”してみてください。

～中学生職場体験～

7/29, 9/3れいめい中学校と川内南中学校の生徒さんが職場体験にきました。患者とのふれあい体験後、『患者さんから「ありがとう」と言われた時、すごくうれしくなりました。患者さんが笑顔になると自分も笑顔になれることを知りました。常に患者の身になって考えながら行動をする看護師さんの仕事の大変さとその中にいつも笑顔があることに気づきました。』と、感想を述べていました。私たちがこの仕事を頑張れる“栄養剤”の言葉をもらった気がします。(小牧)



ミニナラティブ



3階西病棟 田代

「寄り添う看護」

学生の頃、実習中に受け持った終末期患者。はじめ“終末期”と聞いてどう接したらいいのか不安でした。大部屋と違い、閉鎖的な印象をもっていた個室に入るのには勇気が必要でした。緊張しながらも自分から話すよう努めました。話す内容はもっぱら自分の情報収集のための会話。しかし、そんな話であっても患者さんは若い頃や自宅での生活など気さくに話してくれました。退室する時に自然と「きついのにありがとうございました」と言っていました。実習中に自分がしていたことはコミュニケーションと看護師と一緒にするがほとんどでした。他にも何かできたはずなのに何もなかった自分に後悔をしつつも、終末期看護の難しさを痛感しました。実習が終わり振り返ってみると、この患者さんから多くのことを学ばせていただきました。全人的苦痛や死に対する思い・不安があったはずなのに、弱みや不安を見せる事はなく、心の強さを感じました。しかし、元氣そうに見えていたのは自分だけだったのかもしれない。家族の寄り添う姿、声のかけ方は家族だから、信頼関係があるからこそできるのだと感じ、そんな看護ができたらいなと思いました。この実習で、自分中心に実習をしていたことに気づきました。相手のことを考え、相手に寄り添った看護ができるようになりたいと気づかせていただいた実習となりました。



編集後記

8月5日～6日の2日間看護部のインターンシップを実施しました。看護インターンシップとは、就職先を検討中の来期卒業予定の看護学生を対象に就職する前に病院の特徴や職場環境の見学・体験を通して、就職後のイメージをつかんでもらう企画です。今回、2名の方が参加し病院の概要や教育体制、施設内の見学、希望する診療科病棟での看護体験をしていただきました。先輩看護師とのランチや茶話会はアットホームな雰囲気でした。体験病棟の看護スタッフの方々、ご協力ありがとうございました。みんなで精一杯のおもてなしをしました。きっと、また来年の春に会えると信じています。(小牧)